

**1. 授業のねらい・概要**

企業などの組織の基本的な構造やマネジメント方法が、論理的かつ体系的に身につくことを目標とする。具体的には、経営組織論の基礎、企業内の組織構造、組織マネジメント、組織形態の変革、経営組織に対するガバナンスという5つのパーツから、経営組織論の基本領域を学ぶ。

**2. 授業の進め方**

基本的には、参考文献等に基づき講義形式で行うが、一方通行の授業ではなく随所でケース・スタディを提示し、相互ディスカッションを含め、共に考える時間をとるようにする。

**3. 授業計画**

<p>1. イントロダクション： この科目の講義内容、進め方や評価方法</p> <p>2. 経営組織論の基礎(1)： 組織とは何か、経営組織論でどのようなことを学ぶのか</p> <p>3. 経営組織論の基礎(2)： 経営組織論の歴史と位置づけ、経済学や法学との関係</p> <p>4. 企業内の組織構造(1)： 株式会社を中心とした会社法上の機関設計</p> <p>5. 企業内の組織構造(2)： 組織構造の各種基本型、部・課および事業部制</p> <p>6. 企業内の組織構造(3)： プロジェクトチームなど、柔軟性を重視した組織形態</p> <p>7. 組織のマネジメント(1)： 基本的な意思決定体制およびリーダーシップ</p>	<p>8. 組織のマネジメント(2)： 生産性を高める仕組みとしての人事制度、給与体系</p> <p>9. 組織のマネジメント(3)： 企業年金を含め各種福利厚生制度の意義、普及状況</p> <p>10. 組織のマネジメント(4)： 企業内の分業・調整についての基本的なモデルや考え方</p> <p>11. 組織形態の変革(1)： 合併や会社分割などのダイナミックな組織変革</p> <p>12. 組織形態の変革(2)： 持株会社設立を通じたグループ形成、会社形態の変更</p> <p>13. 経営組織に対するガバナンス(1)： 社内におけるガバナンスとしてのリスク管理</p> <p>14. 経営組織に対するガバナンス(2)： 社外からのガバナンスとしてのコーポレートガバナンス</p> <p>15. 全体のまとめ： これまでに学んだことの整理、今後の課題の提示</p>
---	--

**4. 到達目標**

経営組織論の基礎が、論理的かつ体系的に身につくことを目標とする。また、組織形態の変革やガバナンスなど、ホットな話題にも適宜触れるので、関心のある業界や企業について、より深く研究しようという意欲が高まることを期待する。

**5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容**

随所でケース・スタディを提示するので、予習として、問題点の整理や解決方法の模索を行ってほしい。また、授業後は、参考文献・ノート等に基づき復習して、自分なりに講義内容を体系立てて身につけておくことが望ましい。

**6. 成績評価の方法・基準**

100点満点の評価を、次の3つの要素に分ける。①授業に対する受講姿勢(20点)、②随所で提示されるケース・スタディについて課されるレポートの内容(20点)、③期末試験の成績(60点)。

**7. テキスト・参考文献**

参考文献として、金井壽宏『経営組織—経営学入門シリーズ』日経文庫をあげておく。  
また、授業の都度、適宜関連資料を配布する。

**8. 受講上の留意事項**

履修状況を見て、上記授業計画の一部を変更することもありうる。  
また、理解度を見て、適切な参考文献を随時紹介する。